

つかいぼう通信 第66号

編集／特定非営利活動法人障害者自立センターつかいぼう

〒502-0843 岐阜市早田東町8丁目4番1 パセール長良1F3号

Tel.&Fax 058-296-5343

発行／2008年10月6日



キャンプ

お楽しみ

キャンプ

今年の8月9日（土）、10日（日）板取で行われたキャンプの一コマです。この時は天候にも恵まれ、川で遊んだり、恒例のスイカ割りを実施したり、皆様で夏を満喫しました。



平成 20 年度通常総会のご報告

9月18日に平成20年度通常総会を無事に開催することができました。総会では各議案について審議を行い、すべての議案について承認を得ました。議案書等当日資料は事務所にありますので、ご覧になりたい方はご連絡ください。また、任期満了に伴う役員改選の結果、以下の各氏が平成20・21年度の役員に就任することとなりました。

理事長	吉田 朱美				
副理事長	山内 ゆきゑ	後藤 篤謙			
理事	石井 一樹	戸田 二郎	服部 雅文	山本 正喜	
監事	多田 利蔵				

お尋ねになりたいことなどありましたら、事務局までお気軽にお申し出ください。

関係者一同、力を合わせて取り組んで参りますので、今後ともご協力のほどよろしくお願い致します。さわやかな季節ですが、次第に寒暖の差も大きくなってきますので、どうぞお体に気をつけて毎日ご活躍ください。

そして、意見交換会・・・

総会では当法人の前年度の事業と会計の報告、今年度の事業と予算などについての審議が行われました。そして各議案の審議が終わった後、つかいぼうの活動について意見交換を行いました。その時に出た意見のいくつかをご紹介します。

・長年にわたって障害当事者主体の当事者団体として活動してきたが、メンバーの顔ぶれも変わり知的障害を持つ人が増えてきている。家族や施設から離れ自立的に生きたいと言った思いだけでなく、別のニーズも出てきている。そういった

現実や、家族の希望や意向をどうして行くのかも考えていかないといけなくなってきたのではないかと。

・作業所の移行のためには、現在の倍くらいの人を集めないといけない。そうすると、ますますいろいろなタイプの人たちが集まってくるだろう。そうした当事者・家族を含め、どのようにして関わりをつくり、思いを共有していったら良いのだろうか。

・つかいぼうの作業所がめざすものは何か。それがはっきりしていると、人も集めやすいのではないかと。

→ 「どんなに重度の障害のある人も働ける場所」をめざしている。しかし、そこに集まる人も変わり、当初掲げた目的だけでは対応しきれてないのではと思う部分がある。

「働く」とは何かと何度も問い直さないといけない。皆にとってそういう場所が本当に良いのか、もっと違う場所…例えばいろいろな体験をして楽しく過ごせるような所とか…の方が良い人もいるのではないかと悩む事もある。

私たちみんなにとってかけがえのないつかいぼうが、よりよい場所となるよう、熱のこもった意見が交わされました。いろいろなご意見やご提案が出ましたが、やはり作業所の移行、今後のあり方に関する声が多くありました。会員同士がざっくばらんに、思っていることを話したり聞きあうことができ良かったです。

これらの課題は、どれもすぐに答えが出て解決できるというようなものではありませんが、皆さんのお知恵をいただきながら、より良い方向へ向かっていけるよう考えていきたいです。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。



移送サービスの運転ボランティアさん 大募集です!!

つかいほうでは一般の公共交通機関が利用しづらい方を対象に、車椅子のまま乗れるスロープ付きの軽自動車での送迎サービスを行っています。タクシーの半額程度の料金でご利用になれます。

しかし、運転手さんがまだまだ少なく、希望にそった運行が出来ません。

あなたの空いた時間でご協力お願いできませんか。(薄謝あります。)

運転して頂くには、二日間の講習会に出て頂く事が必要です。

詳細は事務所まで。お問い合わせ、ご連絡お待ちしております。

担当 吉田

第23回みんなでやろまい障害者・健常者の大交流キャンプ 報告

8月9・10日(土・日)、恒例の「みんなでやろまい障害者・健常者の大交流キャンプ」を行ないました。参加者77名、場所は関市(旧武儀郡)板取、涼しく、きれいな山や遊べる川があり、ファイヤーが出来るなど様々な条件をクリアしているの、三度目のすぎの子キャンプ場となりました。昨年のキャンプは台風の後で川が増水していたために川遊びは中止になってしまいましたが、今年は天候も良く、事前に川遊びが出来るという情報を流したり場所が定着してきたせいか、例年に無く川遊びの参加者が多く、危険と隣りあわせでもありスタッフはハラハラドキドキしましたが、無事みんなで楽しむ事が出来て良かったです。また行きたいという声も上がっています。

夕方前から雷が鳴り始め、地元の話では「毎日夕立が来て、落雷も近くであった。今日も来るだろう」といわれました。

事務局バンガローに荷物を移動させ、夕立の場合の対応を確認しました。そのうちに雷が鳴らなくなり、「もしかしたら・・・」と淡い期待を持ったのですが、

再び鳴り始め、いやな空の色になってきました。準備してきた交流会を何とかやりたいと思い、早め早めに行動し、ファイヤーに点火しゲームを始め、一方では交流会の居酒屋の焼き物をしていると、大粒の雨が降って来ました。みんなを急いでバンガローに誘導し、焼き物を続けていましたが、雨も雷も激しくなり、スタッフはテントに避難するしか出来なくなりました。稲光がして、雷が轟く度に「キヤー」とか「ギヤー」とか騒いで、後で思うに、雷よりうるさく、周りのお客さんに迷惑をかけていたのではないかと反省したりもしましたが、その時は必死でした（何に・・・?）。

雷雨は9時過ぎまで続き、小止みになったところで焼き物を再開し、各バンガローに配って、初日は終了。「せっかく沢山の人が参加してくれたのに」「あんなに話し合い、準備してきたのに・・・」と非常に残念ではありましたが。これも思い出に残るキャンプとなったのでしょうか。また、皆さんはバンガローでじっくりと交流できたでしょうか。翌日は恒例のスイカ割りをして閉会式、解散。今年は「うみがめ」という障害児とその家族のグループや大垣桜高校、サンビレッジ医療福祉専門学校など始めて参加された方が多く新たな出会いと交流の場になりよかったです。障害を持つ人の参加については、このところ固定されたメンバーが多く新しい顔があまり見られず残念です。「日帰りでもっと近くて楽な場所でのイベント」への転換を考えないといけないかとも思いつつ、こういったキャンプでないと出来ない事も多く、企画の多様化が必要なのでしょう。それにはスタッフだけでは手が回らず、ぜひぜひみなさんのご協力をお願いしたいです。

作業所から……

その①・・・今年の春から岐阜市の貸し農園 100 平方メートルを利用した綿作りは、ぼちぼちコットンボールの摘み取りの季節を迎えました。今年は早くから暑く昨年より一ヶ月早い開花で花の時期が長かったようです。まだまだつぼみは多くありますが、時期的にはもうコットンボールにはならないのではと思います。摘心などあまり出来なかったのですが、今年は葉巻虫も少なくアブラムシも来なくて、大風にも耐えてくれて感謝です。これまで畝たて、マルチ張り、移植、草取り、支柱たて、摘み取りなどを2作業所とボランティアの手を借りて進めてきました。今は通常は1週間に一回畑を見に行つてその時々に必要な作業をします。ここしばらくは晴れた日が続いたり、雨が降る前には畑に行つて摘み取りをします。ふわふわとコットンボールは可愛く気持ちいい。体験したい方

があったら連絡ください、一緒に行きましょう。そのあと綿繰り、綿打ち、糸取りと様々な作業があります。既に技術がある方、やってみたい方、声をかけてください。

半年ほど作業所の仲間と畑仕事を体験し、楽しいです。誰もが何でもやってみないとわからないものだと思います。みんなでいろんなことを体験していきたいと思います。そして絶対に製品化したいし、製品の安全性や地産地消、様々な格差や貧困のことも考えていくきっかけに出来たらと思いました。(文責 吉田)

その②・・・**つながり亭**から「おにまん」はいかがですか。さつまいもの鳴門金時を使った贅沢な「おにまん」です。ここの所つながり亭は「おにまん」の試作を繰り返し、9月23日の「テリーフォックスラン」のテントでデビュー・完売しました。いものうまさは絶対的、素朴な粉の味とよく合い絶品です。お試しください。詳しくはつながり亭まで。

作業所は今年度中に、新体系の多機能型の「就労継続 B」と「生活介護」に移行の予定でしたが、利用者数が満たず今年度は無理、来年を目標に最低定員を20名で、「就労継続 B」のみに変更。支援法の制定5年以内に移行する必要があります、出来なければ地域活動支援センターへの移行です。このセンターの内容はまだ岐阜市でははっきりと示されていませんが、法定事業と比べれば運営しづらいものと思われます。当面の最大目標の一つです。一緒に働いてみようと思われる方、声をかけてください。

第21回 大カルタ取り大会

恒例の障害のある人もない人も車椅子に乗り、同じルールで競技を楽しみます。

◇ 2009年3月21日(土) ◇メモリアルセンターふれ愛ドーム

参加はもちろん、一緒に大会の準備や運営をしてくださる実行委員大募集です。楽しく参加し交流できる大会を一緒に作りましょう。

■カルタノ歌(句)も大募集します。いっぱい作品をつくって、じゃんじゃん応募してください！よろしく願いします☆ OH!カルタ会事務局(担当 後藤)

授業に参加しました

私たちの大切な活動の一つに、一人でも多くの方々に障害者や障害者の問題のことを知ってもらい、関わりあうということがあります。そんな活動の一環として、たびたび大学や専門学校などの授業に出させていただき、障害のある仲間たちの生活の様子や思い、つかいぼうの活動のことなどをお話しています。今年も学校の先生方や皆さんのご協力をいただき、いくつかの授業に出させていただきます。

去る7月7日には、岐阜市にある平成医療専門学院にて看護学科の授業でお話をしてきました。この日は事務局のメンバーだけでなく、つかいぼうの仲間や活動を通じて知り合った方にも協力してもらいました。言語・視覚・全身性などそれぞれの障害についての説明や、病院やスタッフに気をつけて欲しいこと、ヘルパーを使って自立生活をしている人・作業所で働いている人などそれぞれの生活の様子を紹介したりしました。授業の後半には学生たちからの質問に答える時間を取りましたが、堅苦しい話だけではなく「目が不自由なのにどうやってきれいにお化粧したり髪型を整えてるの?」とか「車椅子マラソンの練習はどんなことをするの?」といった素朴な質問も飛び交いました。

後日、私たちの元に授業に出席した学生たちの感想が届きました。長いものもあれば短いものもあり、また人それぞれ受け取り方や感じ方も様々でしたが、学生の皆さんがちゃんと私たちの話に耳を傾けてくれたこと、そして将来の夢に向かって頑張って勉強されている様子が伝わってきました。彼ら・彼女らにほんの少しかもしれないけれど私たちのことを知ってもらえたこと、そしてささやかながら勉強のお手伝いできたことを嬉しく思います。最後に、当日一緒に参加してくださった山内ゆきえさんの感想を掲載します。(文責 後藤)

7月の平成医療専門学院で学生さんたちを前にさせてもらった自分たちの障害や生活についての講義は、事前の打ち合わせも自分が担当する部分的に出来たような気がする。それはいつもだったら話しがちな自分の話も的確に出来たと思えた。自分たちの障害についての講義のほかにヘルパーなど現実的なものを求めて行ったけれど、なかなか目の目が。見られない。でも当事者としてまた顔を出してゆこうと思う。

「見慣れた風景、バスの座席から」

数年前から自分たちの住む岐阜市も市営バスが岐阜バスに統合され、その頃からハイブリットバスや車体の長いノンステップバスが多く走っている。

この本郷の家に住みだしてもうすぐ5年に突入しようとしている。相変わらず自分の「足」は、2キロ範囲は愛車電動車いす、それ以外はタクシーや車。

今はもうめったにしかないが、気候が良い季節などつながり亭から家まで電動車いすで歩いて帰るということもあった。そんな時途中で自宅近くを通らない路線バスだけれど必ずハイブリットバスやノンステップバスが電動車いすで帰宅する私を追い越して行く。そんな時「こうして歩くのもいいけれどノンステップバスも利用して今は行くことが出来ない場所にも行きたいな」と思いながら通過していくバスを見送っていた。

あれから一年も二年も過ぎてしまったけれど、つい最近バスに乗ることが出来るようになった。一度目はヘルパーに入ってもらっている学生さんと。二度目はヘルパーについていってもらうこともなく一人で。しかも「アユカ」というバスカードまで求めて。

このアユカを購入するに当たって、何度も買うか買わないかひとしきり悩んだ。最低で3000円からだったのでこの自分には少々お高い。まだこの先バスを利用するかしないかわからないのにいきなり「アユカ」を買ってもという想いが交差していたが。その間「百均」にあるネームカードを買い障害者手帳とバス代のコインを入れてバスに乗ることも考えながら。

まだちょっぴり暑さの残る日、自宅からJR岐阜駅までいつものように電動車いすで歩き駅前の案内所で「アユカ」が以外にもすんなり買い求められたので、また柳ヶ瀬まで戻り右ループ周りのバスで、いつかは行ってみたいと思っていた「マーサ21」行ってリニューアルした店内をグルグル回り、帰りもバスで帰ってきた。

たまたまマーサで入った多目的トイレ内のベッドが広げたままで、手洗いに近づくことが出来ず他の場所で手を洗いかえってきた。日が短いということでマーサでの滞在時間もほとんどトイレにあてたマーサ行きだったけれど充実したひとときだった。今度はどこへ行こうかな？



山内 ゆきえ

ヘルパー大・だい・dai募集！

どんなに重い障害があっても、地域で普通に、当たり前で暮らしたい…そんな仲間たちの願いをかなえ、障害のある人もない人も共に支えあって生きる社会に一步でも近付くことをめざして、つかいぼうでは長年にわたり様々な形での介助者派遣を行っています。現在も多くの障害のある仲間たちが、ヘルパーはじめ介助者の皆さんの手を借りて、地域で自立的に、充実した毎日を送っています。

介助者として活動しているのは介護派遣部のスタッフの他、社会人のヘルパー、家庭をお持ちの主婦、大学や専門学校で学ぶ学生さんたちなど様々です。

しかしながら、このところ介助者として活動して下さる方が少なく、人手不足がとても深刻です。なかなか人の埋まらないシフト表をにらみながら、「来月の○日と×日はショートステイだねえ」なんて冗談半分で言ってることが、笑い事じゃなくなってしまうそうです。いや、ショートステイどころか、「長期入所～！」ってことにもなりかねません。

はっきりいって、やばいです。でも、家の中にずうーっと閉じこもったり、施設に戻るなんてことはしたくない！させたくない！

介助アルバイトは、楽しくてとてもやりがいのある仕事です。人と人との関わりあってすることですから、最初は戸惑うこともあるかもしれませんが、体温や心の温もりを感じ、自分の力を必要としている人にダイレクトに注ぐことのできる仕事です。時給だって、パチ屋には届きませんが結構高いです（介護福祉士・2級ヘルパーなど資格のある人は1,000円～※）。

つかいぼうでは1年365日、いつでも介助者を募集しています。地域で自立した生活を送る障害者をサポートするメンバーに、あなたもぜひ入ってみませんか？お願いします、このピンチを救ってください！【後藤】

※ 資格をお持ちでない方は800円～。金額は仕事の内容・時間帯によっても変わります。

★お問い合わせ 介護派遣部(担当 石井・馬淵)

□ 編・集・後・記 □

- その①「結局のところ、どうしようもなく入所なんです。このまま家で暮らそうにも面倒見てくれる親はもう高齢で限界、かといって障害者1人では暮らせないし、死なすわけにはいかないから、どっか空いてる施設はないかって、あちこち探し回って、なんとか入れそうなところに頼み込んで、でも本人は入りたくないって言って納得出来ないから、うそついて家から連れ出して、いきなり入れちゃう。ずーっと前からそうじゃん。ちっとも変わってないんだって。こういう事いまだに少なくないんだって。」

地域移行って言うけど、なかなか難しい。施設から地域へのシフトは急には変えられない。地域で支えるサービスの不足と移行そのものに対する方法（サービス）や支援技術のなさや、これまでの暮らしとか周りの考え方とそ
の中で形成されてきた関係性とか・・・？

- その②これまでずっと施設で暮らしてきた、小さい子供の頃からずっとずっと施設だけで暮らしてきた。40年近くなるよ。施設は益々職員が少なくなり、誰がどんなに頑張っても自由がどんどん少なくなって息の根を止められそう。介護のためだけに入っているのに介護だって十分とは言えない。だったら、だからせめて、少しでも若いうちに出たい。出たいんだ。でも、ヘルパーが少なくて、ほんとにいなくて、地域で暮らせない。この先どうなるんだろう。支援のすべがない……。福祉に関わろうとする人がいなくなっている、志を持っていても福祉では生活できない……。専門性を要求され、資格取得の難しさも予想されると益々遠のくよう。専門性が不要というのではないけれど、身近な所で普通の感性でしっかり関わってくれる人の不足も大きいと思う。

日本の福祉ってもう崩壊しているんじゃないかとすら思うよ。

- 本当にまたまた久しぶりの発行ですみません。